

# よくわかる！ AI融資

基礎知識から実用化された最新事例まで

金融とITを組み合わせたFinTechにより、金融機関のサービスが変わってきている。中でも人工知能(AI)は注目を集めており、融資業務を中心に様々な形で応用が進んでいる。本特別企画では、AIで融資がどう変わるのかを解説するとともに、すでに実用化されている新サービスをレポートする。

## AI融資が注目される理由と普及に向けた課題とは

執筆・加藤信吾 ジャーナリスト

### 金

融業界でAI(人工知能)を融資に活用する動きが強まっている。みずほフィナンシャルグループとソフトバンクの合弁会社・ジェイスコアによる個人向けの「AIスコア・レンディング」をはじめ、みずほ銀行や三菱UFJ銀行が中小企業向け融資にAIを活用する方針を打ち出した。

そもそもAIとは、人間の脳が行う作業を模倣したソフトウェア・システムのことをいう。人間の言葉や経験を学習し、様々な要素の情報から論理的な推論を行うことが可能だ。人間の作業の一部を代替することが期待されている。

昨今になって注目されているAIは、これまでに「ブーム」と「冬の時代」を繰り返してきた(図表)。第1次ブームは1950年代後半から1960年代、第2次ブームは1980年代に起きたが、いずれもその後廃れた。そしていまは、AIの第3次ブームの最中だといわれ

る。2010年以降、ネットワークを通じて集まった多種多量のデータ(ビッグデータ)やデータマイニング(深層学習)の登場が、AIブームの復活を後押しした。

特にデータマイニングは、専門家の間でも「数十年に一度の発明」といわれる。AIに大量のデータを覚え込ませ、そのパターンを認識させることで、難しい役割をこなせるように訓練することができる。

### ① AIの歴史 ブームと冬の時代を繰り返してきたAI

現在AIの代表格として扱われているのは、米IBMが開発した認知型コンピュータ「ワトソン」である。グーグルやマイ

クrosoft、アップル、アマゾン、フェイスブックなどの巨大IT企業もそれぞれAIに巨額の投資を行っているほか、日本勢では日立製作所やNTTドコモなどが注力している。

### ② AI融資のメリット 個性等に影響されない融資判断が担当者の

様々な業界で「人間の行っている業務をAIに代替させる」という試みが続いているが、金融業界も例外ではない。その一つが融資だ。

世界で初めてAIを融資に活用した企業がどこかは判然としないが、2006年に創業した米レンディングクラブのような、ネット経由でピアツーピア(個人間の取引。P2P)融資を行う企業ではないかと見られている。